

2021年12月に瞳孔を開き、検査したところ、緑内障の疑いと言われ、今年2月には視野検査の結果、緑内障と診断されました。大変ショックです。詳しく教えてください。
(84歳、女性)

緑内障



金森章泰医師

緑内障は眼球の奥にある視神経の線維が減少して、見える範囲(視野)が少しずつ慢性的に狭くなる病気です。失われた視

まずは進行程度を把握

人の緑内障の大部分を占める開角に続いて回答します。緑内障は、40歳以上の20人に1人が罹患しているとされ、まれな病気ではありません。高齢になるにつれ、有病率は上がり、80代なら10人に1人以上いると言えると思います。病気を指摘されるのはつらい

い疾患が緑内障ですが、それは患者さんの数自体が多いからです。失明に至る方は、既に緑内障の後期か、眼圧(目の圧力)がすごく高いなど、少し特殊なタイプがほとんど。多くの方は普通の生活を送られています。視野検査まで2カ月の余裕があったとのことなので、おそら

きない場合は、レーザー治療や手術治療を考えます。年齢的にはそこまでの治療が必要になることは少ないと思われるので、まずは現状を把握し、しっかりと通院・治療を続けることが肝要です。(兵庫県眼科医会、金森章泰||明石市、かなもり眼科クリニック院長)

◇第1、3、4日曜に掲載します。

神経は再生することはなく、改善はありません。緑内障は大きく二つに分かれ、目の中の水の流れ道「隅角」が開いているタイプの「開放隅角」と、流れ道が狭い、またはふさがっているタイプの「閉塞隅角」があります。今回は日本

ですが、ショックを受ける必要はなく、自身の緑内障が初期、中期、後期で言うところの程度進行しているのかを把握するのが大切です。初期は自覚症状がなく、中期以降で視野欠損を自覚することが多いとされます。後天的な失明の原因で一番多

く眼圧は正常な「正常眼圧緑内障」だと思われれます。正常眼圧緑内障の視野の悪化は一般的にゆっくりと進むといわれ、急激な悪化はまずないと思います。眼圧を下げるのが唯一の治療法であり、点眼薬を主に使います。それでもコントロールで